

**製品名: ラミニン  $\gamma$ -3 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13205**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	170kDa

**抗原情報**

遺伝子名	LAMC3
別名	LAMC3; Laminin subunit gamma-3; Laminin-12 subunit gamma; Laminin-14 subunit gamma; Laminin-15 subunit gamma
遺伝子 ID	10319.0
SwissProt ID	Q9Y6N6
免疫原	抗血清はヒト LAMC3 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 1361-1410

**背景**

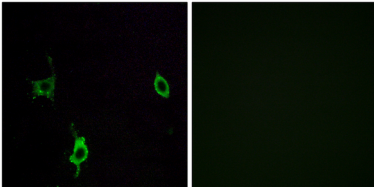
ラミニンは細胞外マトリックス糖タンパク質ファミリーであり、基底膜の主要な非コラーゲン性構成成分です。細胞接着、分化、遊

走、シグナル伝達、神経突起伸展、転移など、様々な生物学的プロセスに関与していることが示唆されています。ラミニンは、ラミニン  $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$  (以前はそれぞれ A、B1、B2 と呼ばれていました) という 3 つの非相同鎖から構成され、それぞれ異なる鎖からなる 3 本の短腕と、3 本すべての鎖からなる長腕からなる十字形構造を形成します。各ラミニン鎖は、それぞれ異なる遺伝子によってコードされるマルチドメインタンパク質です。各鎖には複数のアイソフォームが報告されています。異なるアルファ、ベータ、ガンマ鎖異性体が組み合わさって、異なるヘテロ三量体ラミニンアイソフォームが生じます。これらのアイソフォームは、発見順にアラビア数字で指定されます。つまり、アルファ 1 ベータ 1 ガンマ 1 ヘテロ三量体はラミニン 1 です。バイオドメイン: ドメイン IV は球状です。ドメイン: アルファヘリカルドメイン I と II は、他のラミニン鎖と相互作用してコイルドコイル構造を形成すると考えられています。機能: ラミニンは、高親和性受容体を介して細胞に結合し、他の細胞外マトリックス成分と相互作用することで、胚発生中に細胞の接着、移動、組織への組織化を媒介すると考えられています。類似性: ラミニン IV タイプ A ドメインを 1 つ含みます。類似性: ラミニン N 末端ドメインを 1 つ含みます。類似性: ラミニン EGF 様ドメインを 11 個含みます。サブユニット: ラミニンは、3 つの異なるポリペプチドからなる複雑な糖タンパク質です。 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$  鎖がジスルフィド結合によって互いに結合し、十字型の分子を形成します。この分子は、1 本の長い腕と 3 本の短い腕を持ち、両端に球状構造を有します。 $\gamma$ -3 はラミニン 12 のサブユニットです。組織特異性: 皮膚、心臓、肺、生殖器官に広く発現しています。、

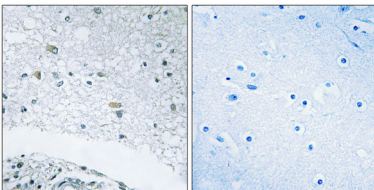
## 研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、がんにおける経路、小細胞肺がん、

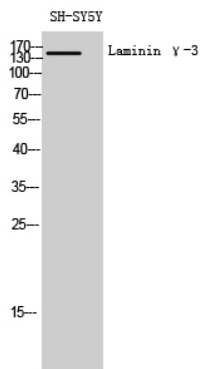
## 画像データ



LAMC3 抗体を用いた LOVO 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



LAMC3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



ラミニン  $\gamma$ -3 ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた SH-SY5Y 細胞のウェスタンブロット解析